

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載
【部門区分】第3部門第3区分
【発行日】平成17年12月22日(2005.12.22)

【公表番号】特表2002-504956(P2002-504956A)

【公表日】平成14年2月12日(2002.2.12)

【出願番号】特願平11-503856

【国際特許分類第7版】

C 0 8 F 297/08

C 0 8 F 2/02

C 0 8 F 210/06

【F I】

C 0 8 F 297/08

C 0 8 F 2/02

C 0 8 F 210/06

【手続補正書】

【提出日】平成17年6月14日(2005.6.14)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】補正の内容のとおり

【補正方法】変更

【補正の内容】

手続補正書

平成17年6月14日

特許庁長官 小川 洋 殿

1. 事件の表示

平成11年特許願第503856号

~~PCT/FI98/00556~~

2. 補正をする者

事件との関係 特許出願人

住所 デンマーク国, 2800 リングバイ,
リングバイ ホベドゲイド 96

氏名 ボレアリス エイ/エス

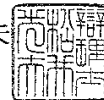
3. 代理人

〒105-0003

住所 東京都港区西新橋 2-19-2. 西新橋YSビル3階

電話 03 (5401) 2521

氏名 (8554) 弁理士 松井 光夫



4. 補正により増加する請求項の数 なし

5. 補正対象書類名 特許法第184条の5第1項の規定による書面

6. 補正対象項目名 (1) 特許請求の範囲

(2) 明細書

7. 補正の内容

(1) 特許請求の範囲を別紙の通り補正する。

(2) 明細書第3頁第17行の「6.5%ヘキサン可溶分」を「6.5%より小さいヘキサン可溶分」と訂正する。



(3) 同第4頁第2行の「99重量%を得る」を「99重量%の量で得る」と訂正する。

(4) 同第4頁7行の「50重量%の」を「50重量%の量の」と訂正する。

(5) 同第4頁末行～第5頁7行の「図面の簡単な説明・・・グラフ図である。」を削除する。

(6) 同第15頁末行の下に、下記の文を加入する。

「図面の簡単な説明

図1は、実施例11、14および15のポリマーのシール強度（最大シール強度(N)）とシール温度の関係を示すグラフ図である。

図2は、同様のポリマーの熱間粘着性（最大熱間粘着力(N)）とシール温度の関係を示すグラフ図である。

図3は、2種の市販ターポリマーと比較して、実施例12のターポリマーのシール強度（最大シール力(N)）とシール温度の関係を示すグラフ図である。

図4は、図3と同様のポリマーの熱間粘着性能を比較したグラフ図である。」

請 求 の 範 囲

1. $C_4 - C_8$ の α -オレフィンから成る群から選択される少なくとも1つの α -オレフィンおよびエチレンから誘導されるモノマーユニットを含有し、エチレン/ $C_4 - C_8$ の α -オレフィンの比が0.3より小さく、ターポリマーの総重量から計算したヘキサン可溶フラクションが6.5%より小さいフィルム形成性のプロピレンのターポリマー。

2. エチレンから誘導されたユニット0.3~3重量%および少なくとも1つの $C_4 - C_8$ の α -オレフィンから誘導されたユニット1~15重量%を含有する請求項1記載のターポリマー。

3. ターポリマーが融点132°Cまたは126°Cを有し、DSCにより測定して、それぞれ120°Cまたは110°C以下で溶融するポリマーフラクションが40重量%より多い請求項1または2のいずれか1項記載のターポリマー。

4. 融点約132°Cを有する生成物について、120°C以下で溶融する生成物のフラクションが50重量%より多い請求項3記載のターポリマー。

5. プロピレンおよび少なくとも2つの異なる α -オレフィンのターポリマーの製造方法であって、該ターポリマーが低融点を有し、該方法が高温で触媒の存在下少なくとも1つのスラリー反応器中で行われ、

a) スラリー反応器に、50~85重量%のプロピレン、1~10重量%のエチレン、15~40重量%の他の $C_4 - C_8$ の α -オレフィン、該温度条件でオレフィン重合を可能とする触媒系、および必要に応じて水素を含有する反応混合物を供給する工程、

b) 該反応混合物を70°C未満の温度で、プロピレンターポリマーを最終生成物の50~99重量%の量で得るのに十分な時間重合する工程、

c) 該反応混合物を5バールを超える圧力下で操作される気相反応器に移行する工程、および

d) 最終生成物の1~50重量%の量のプロピレンターポリマーを生成するために、該気相反応器中で重合を続ける工程

により特徴付けられ、それによって融点135℃未満を有するターポリマーが得られる、該ターポリマーの製造方法。

6. 前記気相反応器が、10バールを超える圧力で操作される請求項5記載の方法。

7. 前記気相反応器に、0～30重量%のエチレン、0～10重量%の他のC₄-C₈の α -オレフィン、0～40重量%のプロピレン、および必要に応じて水素を供給する工程を含む請求項5または6のいずれか1項記載の方法。

8. 前記C₄-C₈の α -オレフィンが、1-ブチレン、1-ペンテン、4-メチル-1-ペンテン、1-ヘキセン、1-ヘプテンまたは1-オクテンまたはそれらの混合物から成る群から選択される請求項5記載の方法。

9. 前記スラリー反応器がループ反応器である請求項1～8のいずれか1項記載の方法。

10. 前記工程a) が2つのスラリー反応器中で行われる請求項5～9のいずれか1項記載の方法。

11. 40重量%以下のプロピレンを前記気相反応器に加える請求項5～10のいずれか1項記載の方法。

12. 40重量%以下のエチレンを前記気相反応器に加える請求項5～11のいずれか1項記載の方法。

13. 10重量%以下の1-ブテンを前記気相反応器に加える請求項5～12のいずれか1項記載の方法。

14. 前記気相反応器中およびループ反応器中で異なる α -オレフィンを用いる請求項5～11のいずれか1項記載の方法。

15. 前記気相反応器中の付加的モノマーとしてエチレンおよびプロピレンだけを用いる請求項5～14のいずれか1項記載の方法。

16. 前記気相反応器中の滞留時間が、1～180分間である請求項5～14のいずれか1項記載の方法。